

卒業研究作品選集

愛知産業大学 通信教育部 建築学科



aSu
AICHI SANGYO UNIVERSITY

2009

建築学科の方針 —— 学術、技術、芸術を集結した建築の総合教育

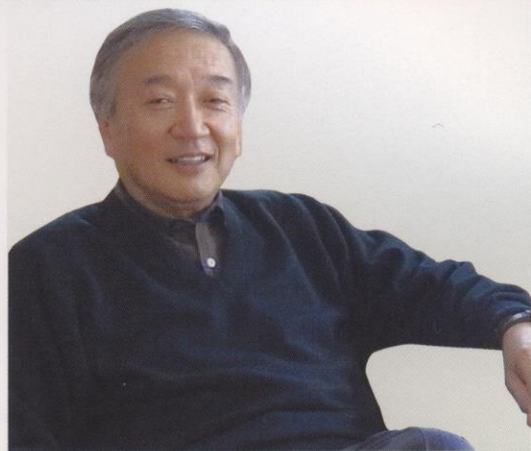
本科は、工学系、美術系の枠にとらわれず21世紀の建築界のニーズに応えられる建築家や建築の知識を持ったキーパーソンの育成を図っています。

常に空間を意識した建築造形の能力や、社会の要請に的確にこたえる設計手法や理念を養うために、工学・美術・芸術・社会科学や一般教養までがバランスよく構成された、豊富なカリキュラムを用意しています。

また、社会人が通信教育で効果的に建築について学べるよう、各科目のテキスト、学習指導書やスクーリングの内容にも工夫を凝らしています。

豊かな文化性と社会性を兼ね備え、総合的な建築視野でこれからの社会を考えられる教育の場を提供します。

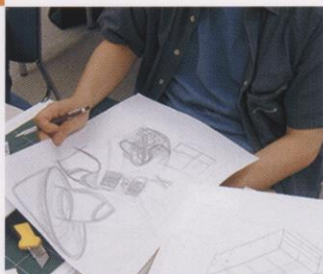
建築造形、建築設計、CAD、構造・力学の演習科目を中心として、建築の各専門分野から幅広く修得します。さらに大学教育の集大成として、卒業研究に取り組み、造形デザインにおける建築・都市の可能性を追求します。



守屋 弓男 教授

建築学科の特色 —— 実践的な教育

美しく、人に喜ばれる建築、街並みを作りたい。



建物に住む人、その街に暮らす人、そして訪れる人が喜びを感じられる、そんな建築ができれば社会的意義は大きいと思いませんか。ファッションが機能性、美的センスを重要視するとおり、建築や街並みも環境に調和した機能や美しさ(デザイン)が求められます。単に雨、風がしのげるだけ

ではいけません。自己満足でも困ります。21世紀の日本は、美しい未来を予感させ、何かワクワクするような建築や街並みが求められています。皆さんも、その一翼を担う建築家や設計のプロフェッショナルを目指してみませんか。

社会で活躍できる人材の養成



忙しい時間を割いて学ぶ皆さんにとって、その貴重な学習時間が、今後の仕事や日常生活に結びつけられれば言うことがありません。通信教育部建築学科はまさにそこにねらいをおき、社会

人を対象とした受講しやすい教育システムを構築しています。

教育内容は短期間(3日間)のスクーリングや通信科目でできるだけ多くの建築知識・技術が得られるよう、課題作品やレポート課題に工夫をこらしています。スクーリングでは、より高いレベルの集中講義、演習を行うため、現役で活躍する建築家や各建築専門分野の教員が授業を行います。さらに造形学部の特徴を活かし、工学や芸術の枠にとられない、創造的な視点で建築を考えられる人材の育成を目指しています。

建築士の資格を視野に入れて



建築業界で働こうとする人が建築士の資格を必要とするのは言うまでもありません。ある先生の話ですが、「力士がまわしをつけるのと一緒に、建築業界で頑張るのだったら、まずはまわし(建築士資格)をつける必要がありますね。」とおっしゃっていました。建築士の資格取得は、本学科の目標の一つですが、とても重要なポイントに位置づけています。卒業後には、二級建築士の受験資格が得られます。また実務経験2年を経て一級にもチャレンジ可能です。二級建築士の受験対策では卒業後に無料の学習相談会やWEB質問掲示板でサポートしています。さらに2007年度からは大手資格学校(日建学院)と提携し、学科講座をアカデミック価格で提供しバックアップしています。

[*建築士法改正により指定された科目の履修が要件になります。]

サテライト教室(東京・名古屋)やネット学習環境の整備にも力を



通信教育で学ばれる方は、在住地を問わず、各地から学びに来られます。場所を問わないことは通信教育の魅力の一つですが、本学ではスクーリング受講の利便性を考え、サテライト教室の運営に力を入れています。現在、サテライト教室を東京・名古屋におき、遠方の学生がより受講しやすい態勢をとっています。また大阪においても提携の専門学校の協力を得て、多くのスクーリングを開催しています。東京サテライトでは建築学科で卒業に必要なスクーリング(面接授業)全てを開講しています。また愛知県では、本学(岡崎)はもちろんのこと、名古屋の副都心、金山の名古屋サテライト(金山総合駅前)で大半のスクーリングを開講しています。サテライト教室では、さらにスクーリング以外でオープン教室を定期的に行い、学習サポートを行っています。

その他、インターネットを活用し、WEB掲示板やブログの情報提供で積極的に学習環境の整備を図っています。

平素より愛知産業大学には格別のご厚情を賜り、謹んで御礼申し上げます。
さてこのたび、以前より開講している建築デザインコースの学生と合わせ、卒業研究総数 71 点の中から選ばれた優秀な作品 16 点を「卒業研究優秀作品選集」としてまとめました。社会人を初め様々なバックグラウンドを持つ通信教育部の学生らしい意欲的な作品が集まりました。本学のあります愛知県では通学部と合同で毎年行なっております卒業研究展を、東京でも開催し既に 4 回目を数えました。そしてそれぞれの会場へ出展いたしましたものを冊子にまとめた「卒業研究作品選集」を 2007 年度より刊行してまいりました。

特に優れた卒業研究には卒業研究賞を授与しておりますが、2009 年度より「守屋賞」と銘打った賞を創設しました。これは、社会人が自らのプロフェッションを通して社会の問題を捉え、建築の造形によって応えるという本学通信教育部で学ぶ本質が際立った卒業研究に授与することといたしました。

今後とも、優れたデザインを生み出せる卒業生の輩出を目指して一層の努力を続けていきたいと考えております。引き続き、ご指導ご助力いただきますようお願い申し上げます

愛知産業大学 通信教育部

造形学部 建築学科主任 守屋 弓男

2009年度 卒業研究受講生の現住所分布図



2009年度 卒業研究の分析とトレンド

※コンセプトの文章に対しキーワード重要度計算プログラムを適用し、その出力結果に固有名詞等の除去などのクレンジング処理を行った。

コンセプトの分析によるトレンド

	2009年度	2008年度	2007年度
1 位	人	空間	道
2 位	空間	施設	施設
3 位	建築	人	まち
4 位	場所	都市	人々
5 位	場	生活	周辺
6 位	街	地域	交流
7 位	地域	日本	文化
8 位	施設	場	森
9 位	商店街	環境	壁
10位	人々	街	集合住宅

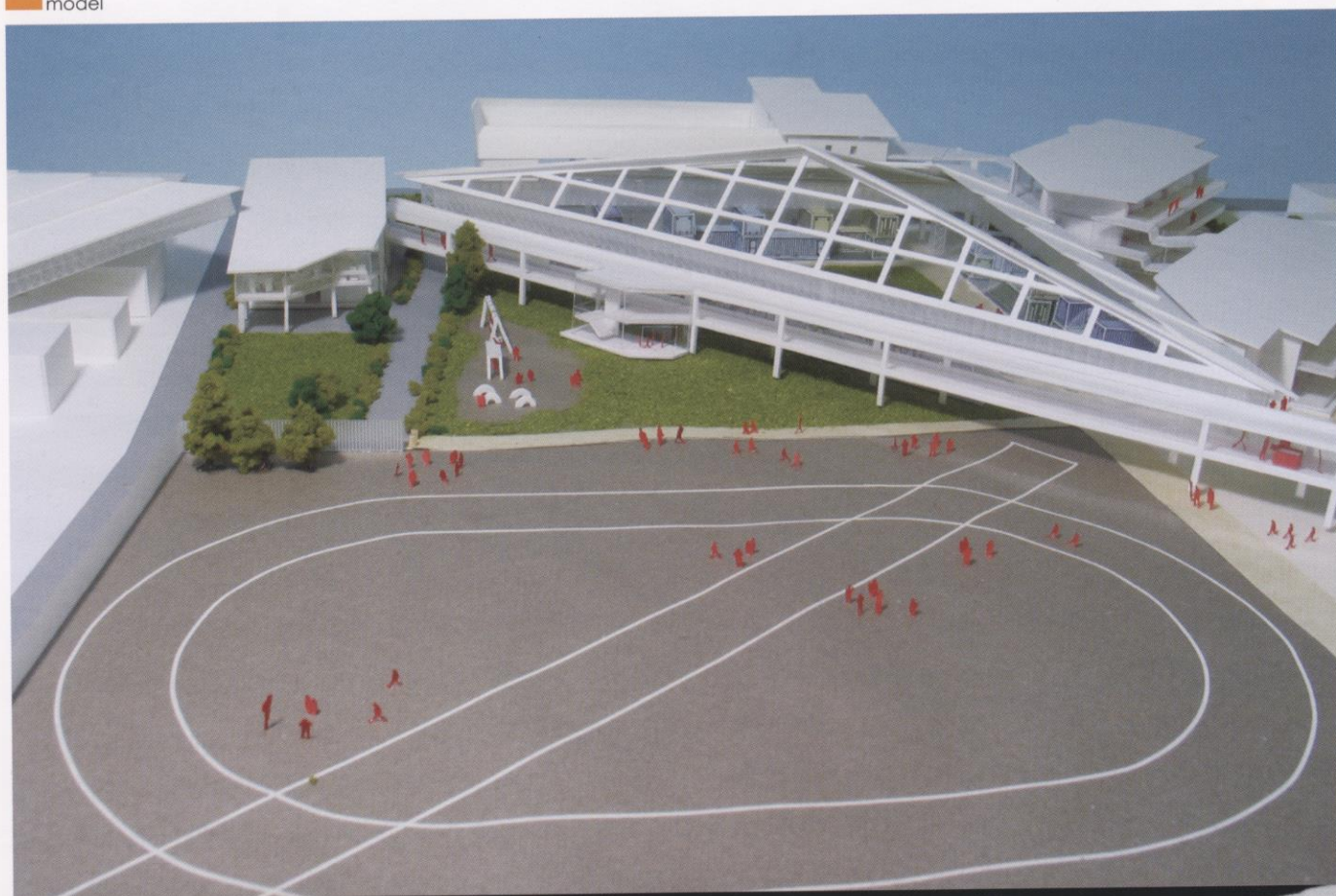
コメントの分析によるトレンド

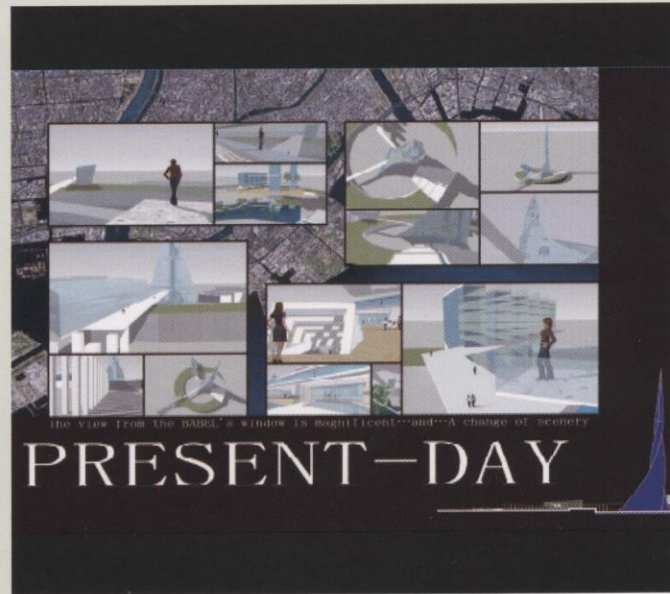
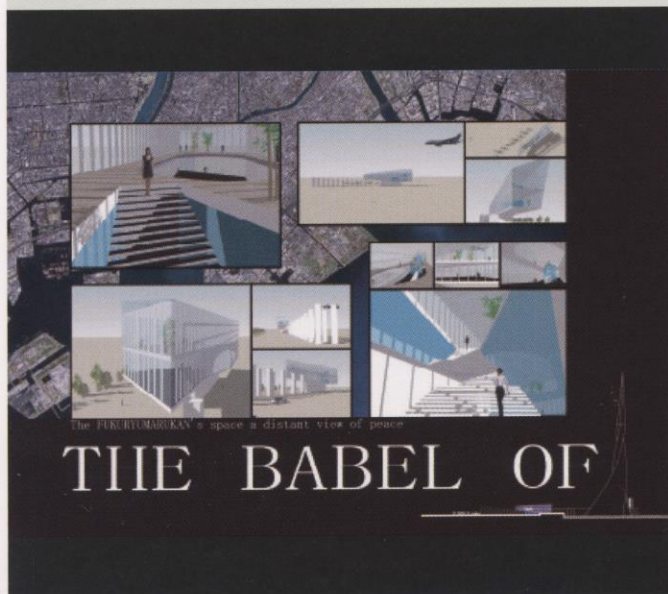
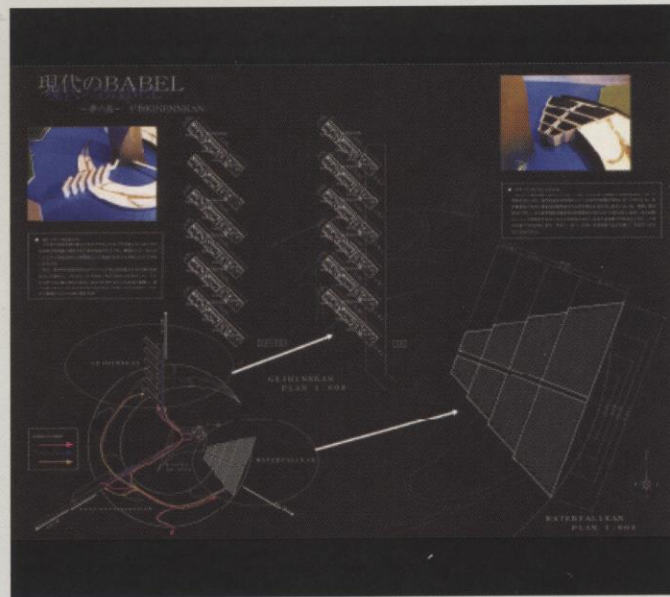
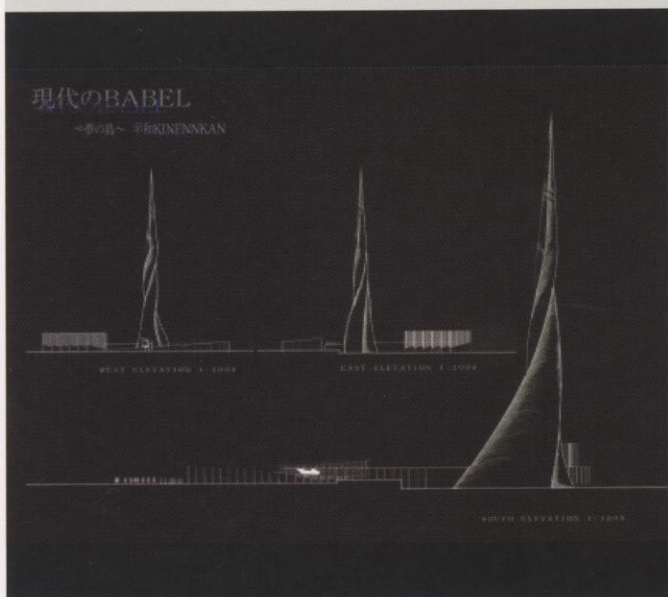
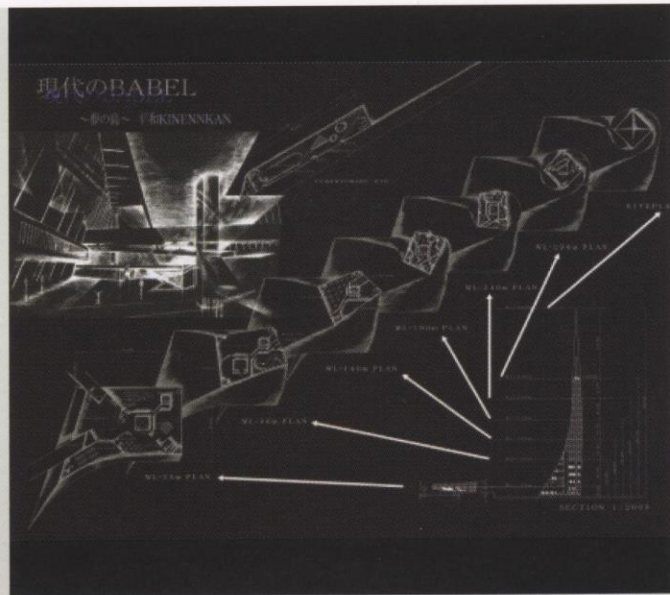
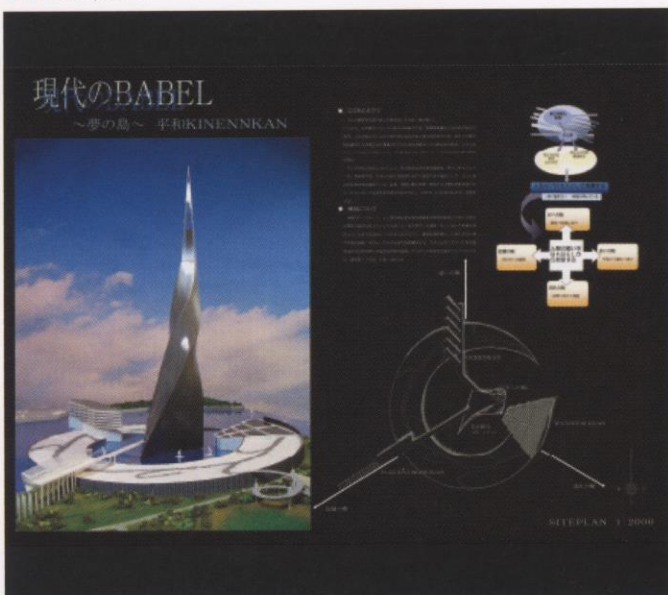
	2009年度	2008年度	2007年度
1 位	空間	人々	都市
2 位	都市	街	デザイン
3 位	作品	建築空間	施設
4 位	建築	人	建築空間
5 位	場所	空間	可能性
6 位	場	空間性	造形
7 位	造形	研究	敷地
8 位	災害	都市	空間
9 位	商店街	施設	環境
10位	社会性	世界観	流れ

2009 年度 卒業研究 全リストと選出作品目次

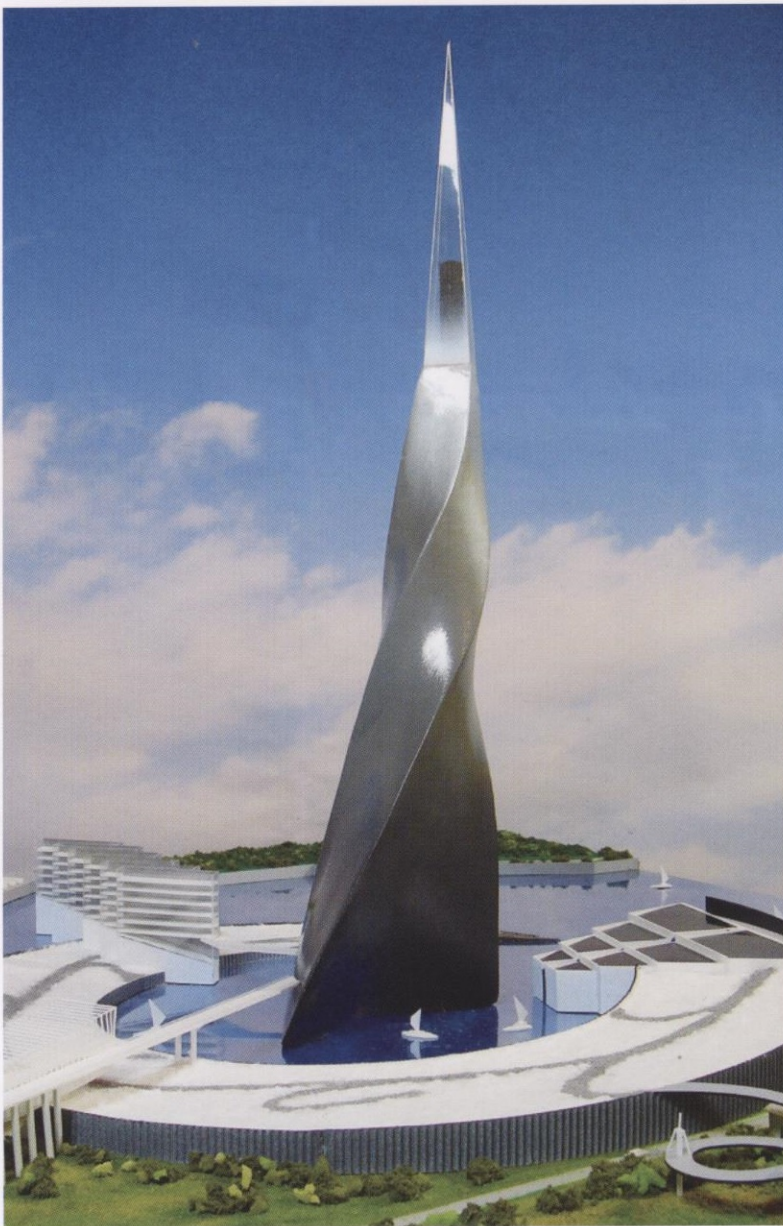
選出作品	タイトル	氏 名	掲載頁
●	Disaster Defense Base 災害防衛基地 ～災害対応型小学校～	高井 真弓	4,5
●	現代のBABEL	市川 浩	6,7
●	みみをすます	荒浪 祐子	8,9
●	Ibasho ～小名浜周辺地域の人・道・街をつなげる計画の提案～	新堂 美佳	10,11
●	どやにひかりを～ 一生の狭間で生きる日雇い労働者達へ～	畑中 裕美	12
	みんなの学校	伊井田 志乃	
	外とつながる劇場	石田 美菜子	
	東北のフロンティア -JR郡山駅への提案-	石橋 和也	
	a place to live	市場 裕子	
●	都市を繋ぐ ——過去と未来、人と街を結ぶ——	宇都宮 真木	13
	WALKING IN THE MUSIC	江平 彩子	
	路地の中で - 路地広場 と題して	青海 孝	
	秩父銘仙館	大島 律子	
	人のチカラ、時間の積み重ね、小さいモノ	大西 香織	
	やなぎハウスによる商店街再生計画	岡島 知恵	
	森をつくる～八ヶ岳高原音楽堂再構築案	岡田 道夫	
●	地上の水流	岡本 淳子	14
	海上空港（未来）のターミナル	角田 勝治	
	みちくさのつづき インド人と日本人が『つどいいたい』場所	加藤 英子	
●	On The River	金安 良和	15
	高齢移住者のための交流施設+療養院 -移住民の生活をサポートするために-	金 旻奎	
	つながるを楽しむ街	久野 由美子	
	大地と呼応する幼稚園	小林 和宏	
	感性再生住宅	小林 誠	
	都心部での緑化について	小鞠 由起	
	人が集う商業施設	小柳 慎也	
●	アクティブシニアタウン「NEXT STAGE」	近藤 和恵	16
	ま・すきま 街の隙間を歩く	齋藤 寿	
●	川越 cityhall ～市庁舎と美術館の複合施設～	酒井 直樹	17
	近未来農業のフロンティアを探る -宇宙空間の利用方法の拡大を探る事業の考察-	佐藤 由紀子	
	おひとり様も安心して暮らせる共同住宅のあり方	澤田 由美子	
	Nature House -自然体感・海から陸そして街(そら)へ-	篠田 達輝	
	癒しを求めて	神宮司 怜奈	
	空中歩道がある生活 -人の生活と車社会との融合-	新村 佳民	
	「歴史と水辺のシビックセンター」 -浦安市庁舎建て替え計画-		
	anata ni aitakute	鈴木 裕之	
	さくらミュージアム <熊谷市の歴史・文化を記憶する建物>	高木 恵都子	
	優しさと楽しさの融合する駅	高橋 奈央	
	那波泊の地域力 -人・歴史・地域のチカラを活かしたまちづくり-	武政 正樹	
	伝統を受け継ぐ街並み -江戸時代から未来へ-	田嶋 悦子	
	旧校舎小学校廃校利用 (あそびば)	塚野 智子	
	まほろばの宿 新しい奈良の宿泊施設を提案する	辻 雅之	
●	暮らし方と建築の再構築	寺村 幸司	18
●	流動する空間 ～商店街の新たな可能性～	徳田 麻衣子	19
	茅ヶ崎ヘッドランドシアター -海岸侵食に取り組み自然と文化を守る-	徳留 信隆	
	追悼の丘～生と死に向き合う場所～	中神 正博	
●	取り残された「時間」の片鱗 - 大崩海岸の展望 -	長澤 圭吾	20
	南方貨物線再利用計画(案) MID LINE PROJECT		
	密集した下町の中に広がる緑の空間 (ランドスケープ + アーキテクチャー)		
	Nobody Knows 農・休・知	根本 岳史	
	鎌倉歴史資料館	野尻 淳平	
	帰っていく風景 日本人の心の原風景を記憶する公園	野村 種明	
	まじわる場所 -輪島駅跡地への提案-		
	駅前解放区-新・立石仲見世商店街計画	橋本 昌和	
	Crystallize OTARU	長谷川 純子	
	いっしょに暮らす いえ	長谷部 乃理子	
	自然と建築	原 一雄	
●	富士行燈 富士山への複合施設提案	日隈 大輔	21
	NEXT DOOR:AKJ -旭川空港改築計画-	平岡 和美	
	旦過市場再生計画	本田 美香	
	博多港旅客ターミナル		
	かばたのある風景		
	音楽に残される人・逝く人の火葬場-	井川 朋子	
	自然との対話	村松 奈緒美	
	幼稚園～あそびで学ぶ幼稚園～	屋敷 徹	
●	Artist in Resort -五感を刺激するアートサイト-	山崎 未央哉	22
	-一番街商店街の再生 -にぎわいの創造とその相乗効果-	山城 真二	
	浮遊～都市におけるコミュニティスペース	山田 彰敏	
●	スキマを生かせば街は生まれ変わる	山村 理恵	23
	葬斎場の設計(弔いの場所)	横山 京子	
	ゆりかご園 -児童養護施設小規模化-	吉田 朝子	

model





model



concept

昨今、人類は「生」に対して希薄さが目立ちます。また第五福竜丸の事件を含め平和に対する意識も時間の経過とともに薄らいでいます。

そこで「死の灰を浴びた第五福竜丸をシンボルとして「生」を体感でき、平和への祈りを世界に向けて発信できる施設として、さらに過去の記憶も残す施設として、(具体的には体験記閲覧室、情報閲覧室、被爆当時現存物の展示ブース、メモリアルツリーも施設内に計画します。)そして広島・長崎に継ぐ首都—東京から人類の未来永劫にわたってメッセージを発信する現代のBABEL (平和KINENKAN)を築造するものであります。

comment

生と死を真摯に考え、あの世と現世を繋ぐ装置として建築でそれを捉えようと試みた挑戦的な作品である。目に見えない次元とそこを結ぶ接点を天に届こうとする高さで表現する手法は、古代からある人類の憧れでもあるが、現代的なシースルー素材でつくることによって抽象的な概念をコンセプトに解決した。またあたかも上昇気流を生むように天をつく鋭利でバニシングな形態は、あたかも彫刻的ではあるが、その螺旋状の緩やかなカーブは真に現代のバベルを現しているようである。作者の想いを単にかたち化するだけでなく、夢の島での平和を再度考えさせる拠点性を選択し、そこで利用者が生と死を考える場となるよう機能を集約させた点が評価される。ダイナミックな造形性と表現の丁寧さにみられる豊かで緻密な設計は他に見られないだろう。

(担当教員：白濱 力)

Hiroshi Ichikawa

市川 浩

長野県在住



現在、設計事務所の営業をしていますが、会社の配属をいただき働きながらより一層建築の世界を学ぶことができるので、ASUを選びました。職業も年齢も異なる方々と共に建築のかたちと空間、そしてそれらの秩序について基礎的な概念からデザイン的に高度な内容までを順序よく学ばせていただき私がこれまで体験したり、文章でめぐり逢った建築、そしてデザインするとき頭に描く建築をより深く理解する助けとなりました。

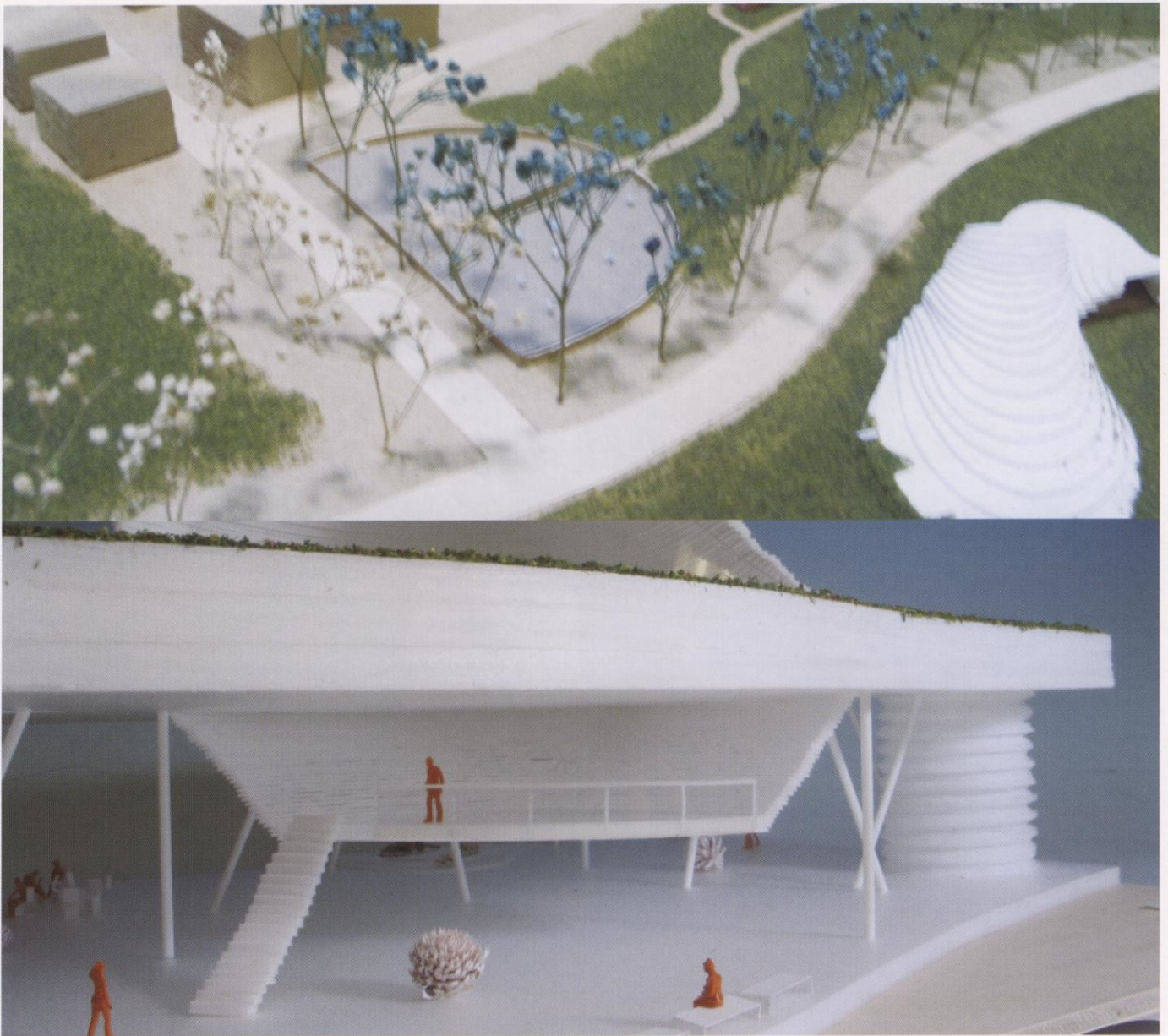
かたちや空間に対応した人間の意識は絶え間なく次の「かたちと空間」の創造を生みだします。これからもそんな領域へ身をおいていられたいと感じています。

みみをすます

work panel



model



concept

はじめに詩があった
その詩から受けた感銘を 建築でもって表したかった まず 場所探しから始まった

選んだ土地は川治いの 明治時代のレンガ建築が残る一角 川は未来を運ぶものと考えた
木の年輪のような 川の流れるような 宇宙の渦のようなかたちの 現代アートミュージアム
これを新たに挿入し ランドスケープを計画する
悠久の時間の波動を感じるこの場所で 人々が自らの心の奥底に みみをすます

そんな場所の提案である

comment

一心との対話— 日々の暮らしの中で浮かぶ、心象風景を画像として焼き付けた作品。この作品は「辺境」すなわち、荒れ果てた河川敷、打ち捨てられた工場跡などに内在するポテンシャルを時間軸のフィルターをかけて「幻視」している。建築が前面に出て強く主張する訳ではなく、心満たされるものがあればそれでよいという思いが伝わってくる。それは次の時代、造形や建築にかかわっていく者として、心満たされることがなにより大切なのではないかと問いかけているようにも思える。

(担当教員：宮武 仁)

Yuko Aranami

荒浪 祐子

静岡県在住

生まれて此の方なにかになりたいと願ったことはありませんでした。

建築はそんな私に初めてこの仕事に携わってみたいと思わせてくれました。

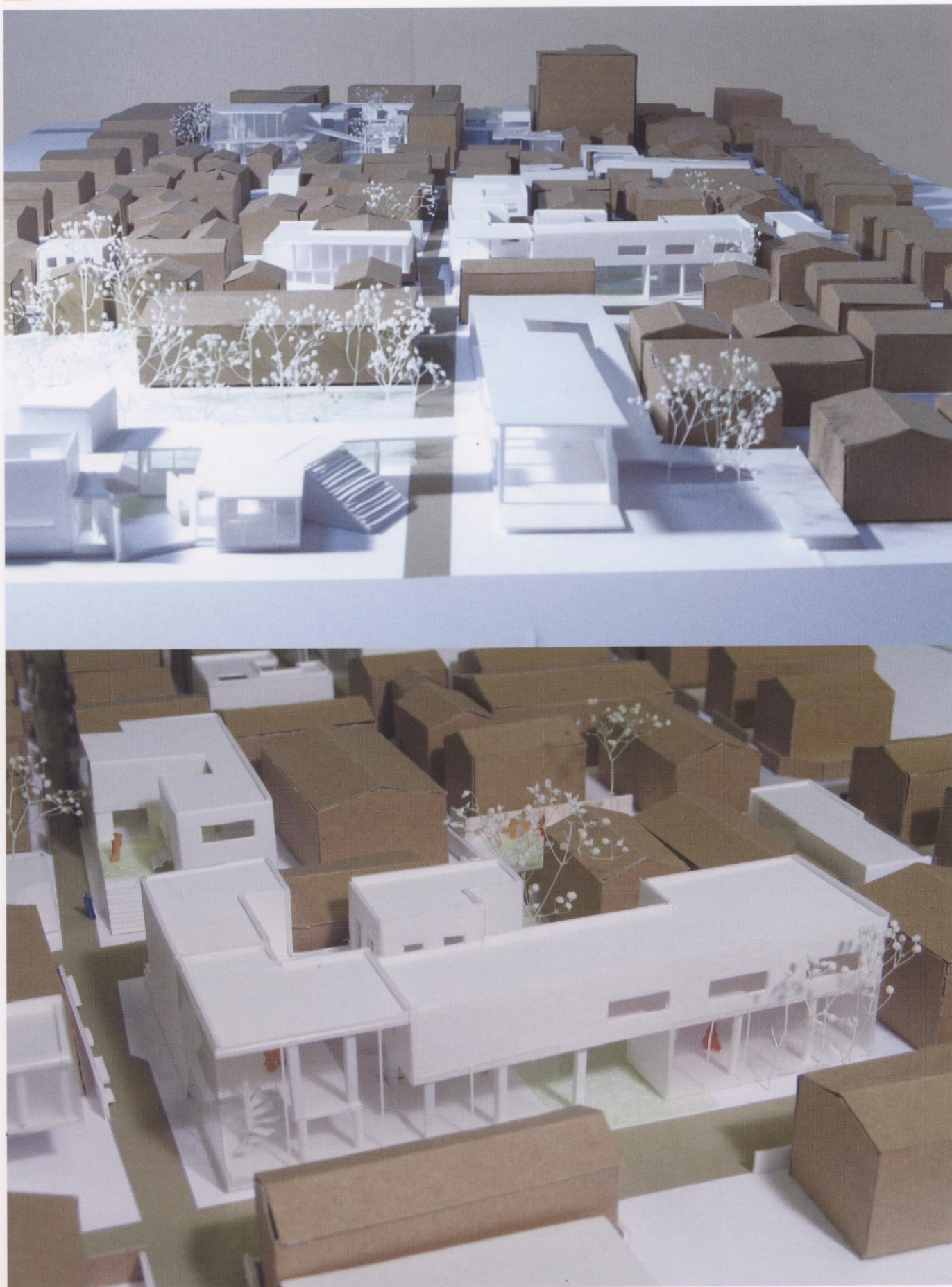
他種の仕事をしていた私にとって ASU への入学はとても勇気の要ることでしたが、入ってしまったら実に楽しく実在にたいへんで有意義な毎日でした。

ある意味 私には建築によって救われているのです。

建築は私の心の糧として存在しているのですから。

仮に建築が私を選んでくれなくてもこれからもずっと一番の友人として付き合っていけたら幸せだと思っています。

model



work panel



Ibasho

—小名浜商店街地域の「人・街・面」をつなぐ計画の建築—

01 SITE

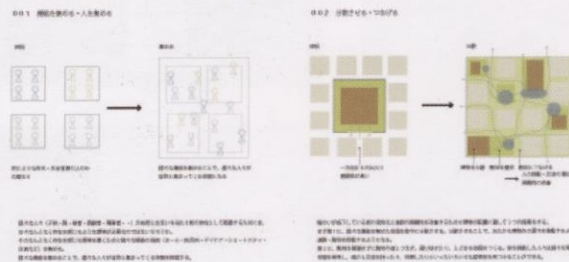


01 SITE
小名浜商店街地域の「人・街・面」をつなぐ計画の建築

02 RESEARCH

02 RESEARCH
小名浜商店街地域の「人・街・面」をつなぐ計画の建築

03 CONCEPT



04 SYSTEM



05 PROGRAM



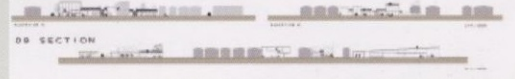
06 1F PLAN



07 2F PLAN



08 ELEVATION



09 SECTION



10 STORY



concept

近年少子高齢化、人口減少などが問題となっている。また、医療の発展もあり、体が不自由になってからも長期間生活する人も増えている。このような社会となった今、自分の居場所を見つけられない人たちが多くいるのではないだろうか？

また、街自体も商店街のシャッター化、街の空洞化といった問題点を抱えている場所が多い。計画地である小名浜商店街周辺地域も同様の問題点を抱えている。

この2つの問題点を解決できるようなプログラムはないだろうか？

「街のような建物ではなく、街全体をひとつの建物と考える」

建物を街に開放するだけではなく、街全体をひとつの建物と考え、住民同士のつながり、街と建物とのつながりを考える。そうすることで、年をとっていても若くても、障害があってもなくても、誰もが、自分の好きな時に自分の好きな居場所を見つけられる街になる。そんな計画を提案する。

comment

「障害者の社会復帰」と「地方都市の衰退」という現代日本の抱える二つの大きな問題を読み解き、その二つを同時に解決しようとする新しい都市モデルを提示した作品。さまざまな観点に基づく分析から生まれるデザインを丹念にレイヤー状に積み上げ、その総体として全体像を浮かび上がらせるその手法は非常に鮮やかで、新たな発見の可能性を大きく感じさせる。

(担当教員：久原 裕)

Mika Shindo



新堂 美佳

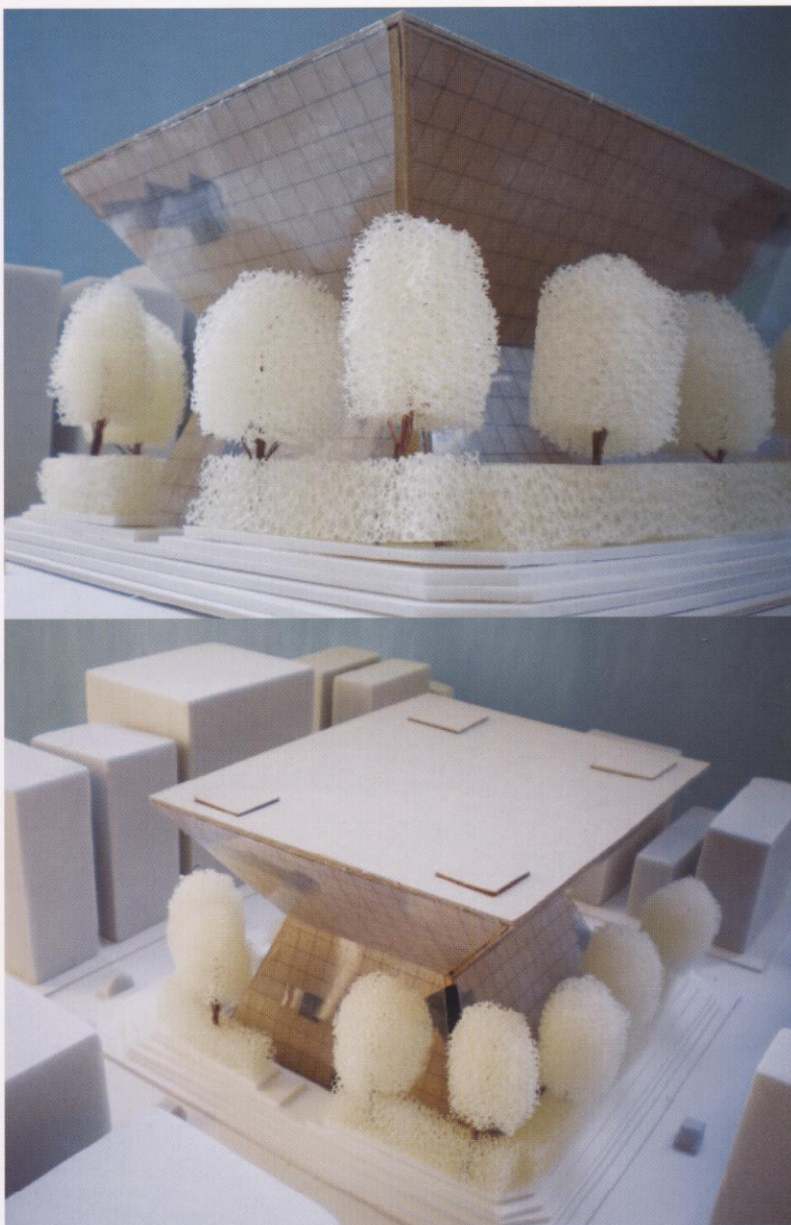
福島県在住

医療職として日々従事するなかで、当初は福祉住環境コーディネーターの資格を取得することも考えました。でも、「どうせ勉強するのなら」という思いと「図面を引いてみたい」という思いから、大学に行き建築を学ぶことにしました。

卒業制作はただひたすらに楽しかったです。自分が思い描き、考えることが形になっていき、それを表現し人に伝える、そんな過程も楽しかったです。

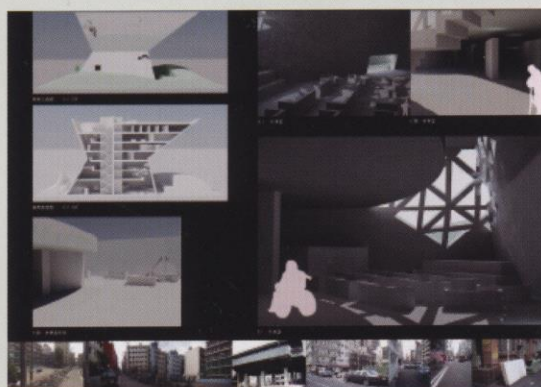
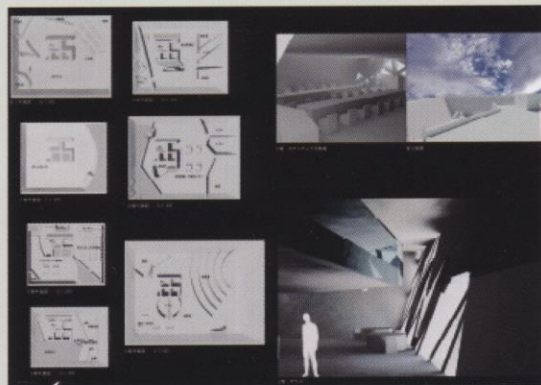
今後については未定ですが、建築の楽しさを知った今、より深く学び、経験し、更なる未知の楽しさ、おもしろさを見つけていければと思っています。

model & work panel



どや街に光を〜

— 生死の狭間で生きる日雇い労働者達へ —



concept

「どや街」という場所をどのくらいの人知っているだろうか？

横浜市中区寿町周囲の地域を通称「どや街」と言い、簡易宿泊所が密集、日雇い労働を主とする人が生活をしている。

どや街の路上には違法駐車やゴミがあふれ、さらに仕事にあふれた日雇い労働者達が日中から飲酒や賭博をし、また高齢化も進み、孤独死するケースが多発している。

このような独特の地域において、日々の暮らしの癒しの心のモニュメントとボランティア精神で、未来への安らぎを求めることができる建築を提案したい。

comment

高級住宅地が隣接する一角に、人権・安全・自由・生活・経済の社会保障が十分には届かない「どや街」と呼ばれる地域がある。やむなく住人となった弱者達に、行政では限界あるケアを補うため、ボランティアが積極的に活動できる心の拠点を提案した。男性でも足を運ぶには躊躇するエリアだが、彼女は前職のキャリアを生かし深い調査と分析を実現し、建築計画、造形によって問題を問いかける社会性の高い、意欲的な作品。（担当教員：石崎 友久）

Hiromi Hatanaka

畑中 裕美

神奈川県在住

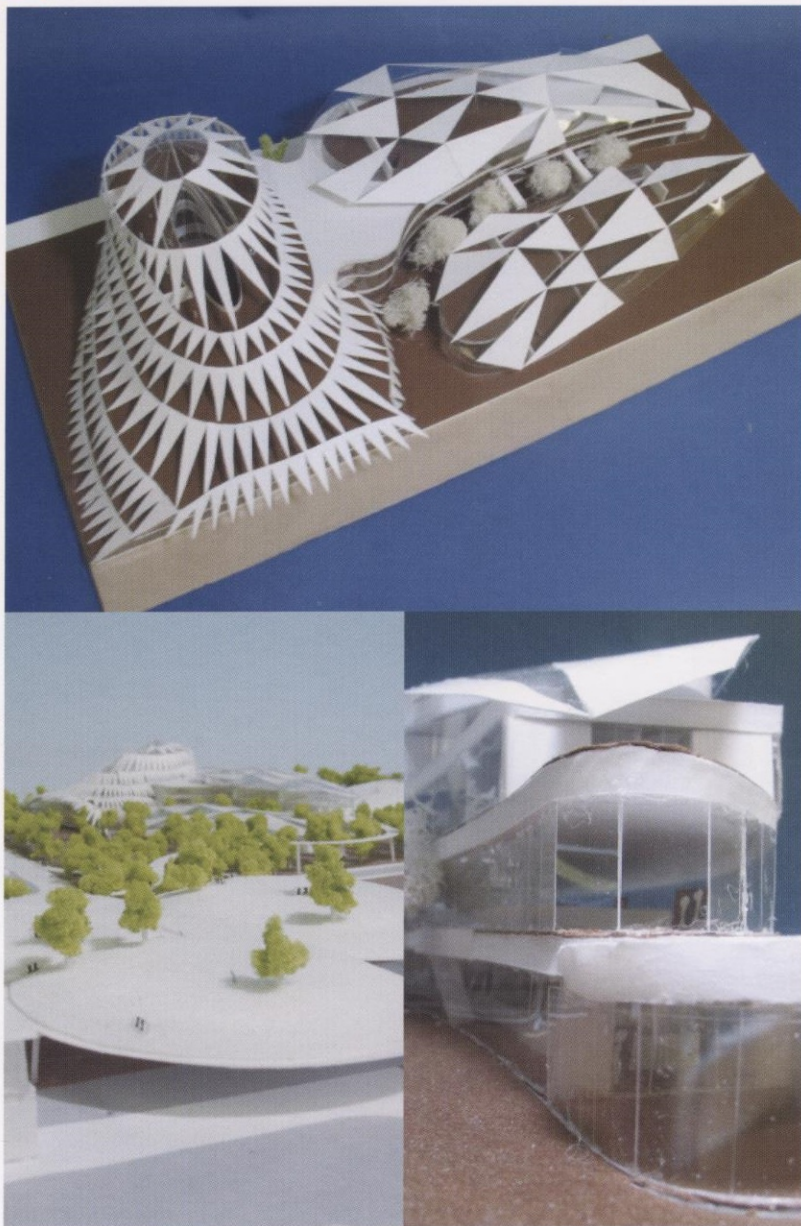


最終学歴が高校卒業の私には、まずは大学を卒業しようという事から考え始めました。

その上で、何を勉強するか悩みましたが、以前から興味があった建築を学ぶことを決め、愛産大に入学しました。

モチベーションと時間の確保が難しかったのですが、年齢問わず仲間が出来たのがとてもいい思い出になりましたし、家族の支えもあって無事4年間で卒業することが出来たので、今後は資格取得も目指し、いつか建築の仕事に就きたいと思っています。

model & work panel



concept

古き良き地方都市から高機能都市化への道を進み始めている、静岡市。それは一方で歪みを生じ、旧静岡、旧清水の二大市合併は、一部の旧市民間に感情的な2極化を拭いきれない。また国道1号、JR東海道本線が市街地を貫いているため、都市核中心部は交通安全性低下の問題を抱える。

現在静岡市街地と清水市街地の中間に位置し、デッドスペースとなっている東静岡駅周辺に、文化施設などを主体とする新市街地が計画されている。そこで本研究ではこれからの新しい市として市民の心を結び、将来に誇れる美しく豊かな市を育むことを目指して東静岡駅前に新庁舎を建設し、JRにより南北に分断された領域をつなぎつつ、3都心の形成、各都心間の交流活性化を図る。

comment

平成の大合併は地方行政の効率性と向上と同時に巨大都市をいくつも出現させた。関東と中部地方に挟まれた静岡市にあって東海道メガロポリスと称するよういくつも都市が数珠なりにつながっている。この作品は勢い無個性で埋没しかける都市を意味ある存在性へ引き上げようと考えた施設である。単なる合同庁舎で終える事なく、今後「繋ぐまち」として本当に求められる機能や空間を的確に取り込んでである。東静岡駅に隣接する敷地はアクセスの良さとスペースにも恵まれ、提案されたシビックセンターは真の市民広場として活きる空間を提供する。変化にとんだランドスケープデザインも楽しい。施設自体は既成概念にとらわれない自由な発想で樹木や自然景観を感じさせるさわやかでユニークな空間を構成しており、結果として木を仕上げ材とした独特な優れた建築デザインを表現できたと思う。

(担当教員：白濱 力)

MakiUtsunomiya

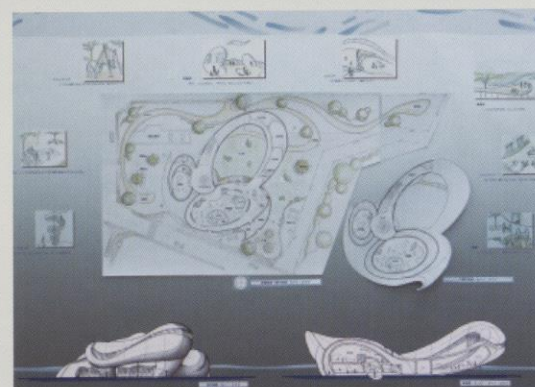
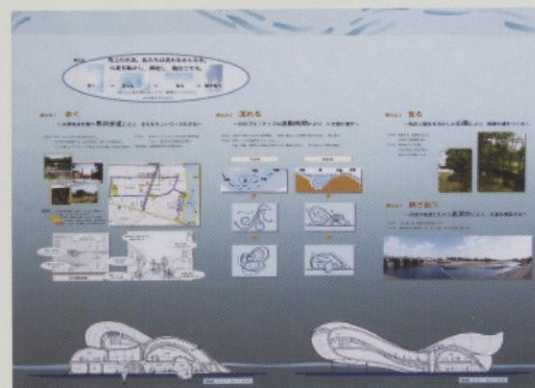
宇都宮 真木

静岡県在住

ずいぶんと速まわりをしていると思う。
でも今ここにいるのは偶然ではない。
今までの道のりが間違っていたわけでもない。
これしかないというタイミングで建築の道歩き始め、
始めてみると、なるべくしてなっていることを知る。

高度1万メートルから見下ろす
夜の地球に浮かぶオレンジの光のひとつ、
あるいは見えもしない影の一片に
人が帰るところをつくる。

model & work panel



concept

世代間分離の状態は、プログラムやハコものへ依存ではなく、人の本質が変わることによって改善される。そして建築は、人を変えることができる。そこで、世代を超えた人々が同じ場所で同じ時間を共にし、自発的に交流できる複合施設を計画する。

解決法は「地上の水流」。

歩く・流れる・登る・解き放つ、この四段階の空間を連動させる。

心身を動かし、解放し、融合させることで、規制・属性・枠をとりはらい一体感・共有感を生み出す場を創生する。

comment

都市における居住者の関係性が不連続になっている。既に地縁的コミュニティは崩壊しつつあるのかもしれない。この不連続な状況に対し、住民が交わるゆるやかな渦として、この建築が創られた。立体的にも平面的にも敷地に隣接する川の流れにも似た流動的な空間が構想されており、適度な距離感を自ら選びとりながら交わっていくことを許容する新しい都市的交流の場としてあるいは新たな都市のランドマークとして成立している。

(担当教員：丹羽 哲矢)

Junko Okamoto



岡本 淳子

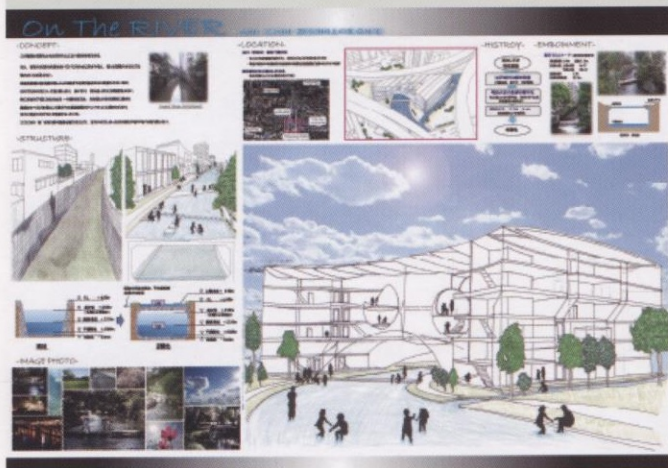
兵庫県在住

住宅メーカーに勤務し、プレハブのシステムや規制の中で計画をたててきました。退職後、自分にできることは何かと自問した時の答えはやはり、建築を通じての貢献でした。そこで生涯、建築に携わって仕事をしていくために、全体を俯瞰できる視野を持ちたいと考え、愛産大に入学しました。学ぶにつれて、造形の捉えかた・歴史の積み重ね・将来への使命など多岐にわたる分野について、目からウロコが落ちるような衝撃を受け感動を味わえたことが何よりの糧となっています。

卒業後は、マンションのリフォーム分野に携わりたいと考えています。末尾になりますが、熱心なご指導を頂いた先生方、励ましあえた同窓生達、支えてくれた家族に何よりの感謝を申し上げます。

On The River

model & work panel



concept

この建築は2層化された河川の上に立つ集合住宅である。
ふと、東京の川辺の歩道を歩いていて川の水に目をやると、濁った深緑の水でとても触れたいとは思えない。
高度成長期の排水垂れ流しによる異臭や水質汚染はかなり改善されているが、それでもあの川に入って走り回ったり、泳いだり、魚を追ったりとは到底思えない。特に渋谷川下流にあたる古川一の橋付近では、川は高さのある護岸に囲まれ建築はすべて川を背にして建てられ高速道路のジャンクションに囲まれており、まさに見放されたデルタ地帯となっている。
ここに川の“表”を取り戻す建築を建てることで、忘れられてしまった川の輝きや音や匂いを取り戻したい。

comment

本提案は、その敷地設定に大きな個性がある。一見すると高速道路が交差するデルタ地帯に着目し、都市的なスケールのハコモノ建築デザインに見える。しかし、実際には都市化によって失われてしまった自然を回復し、忘れられた渋谷川の清流を取り戻すヴァナキュラーな提案である。渋谷川の2層化による提案も興味深いものである。
(担当教員：伊藤 潤一)

Yoshikazu Kaneyasu

金安 良和

栃木県在住



最初は建築の造形に興味を持ち、仕事をしながら学べる塾生大を選びました。

普段も設計という仕事をしていますが、建築の造形だけでなく、空間やその意味を深く考え、場を生み出すという課程は非常に面白く、大変でしたが充実した2年間でした。

卒業後はまず2級建築士取得をめざし、建築めぐりなどで興味を持ち続けることで、建築の感覚が身につけば良いと思います。出来れば、様々はコンペに参加できる作品が作れるようになればいいのですが。

アクティブシニアタウン「NEXT STAGE」

model & work panel



concept

わが国では今後、65歳以上の構成比率が一気に拡大に向かうことが明らかとなっている。これまで日本では退職することが社会からの引退を意味し、「体の弱った老年になる」という風に捉えられてしまいがちだった。しかし60代といっても圧倒的に元気なのが実態である。子育てを終わり、仕事を退職した60代70代は、その後人生の約4割をも占める「退職後の人生」を送ることになる。今回、子離れ・退職の時期から実質的な老いを迎える80代になるまでを「セカンドステージ」と位置付け、どのようにすれば、その長い時間を有意義に、そして生き生きと暮らして行くことができるか考察する。

comment

超高齢社会を迎えようとしている今日、誰も「セカンドステージ」をいかに過ごすかは重要な課題である。単なる老後ではなく、誇りと自信に満ちた晩年を有意義に過ごす場所を、建築空間として表現している。住空間とワークスペース・交流・学びの場を融合させ、社会との繋がりをもちつつゆったりと過ごせ、かつての老人福祉施設ではないシニアタウンを提案している。

(担当教員：木下 太)

Kazue Kondo

近藤 和恵

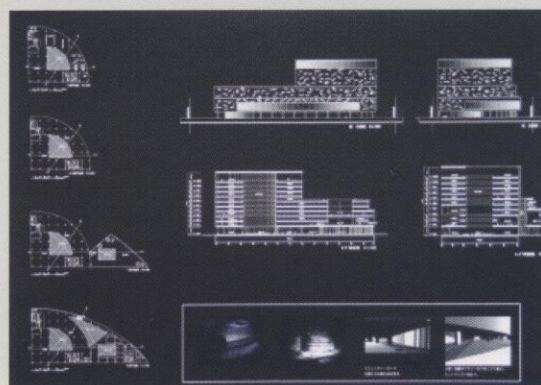
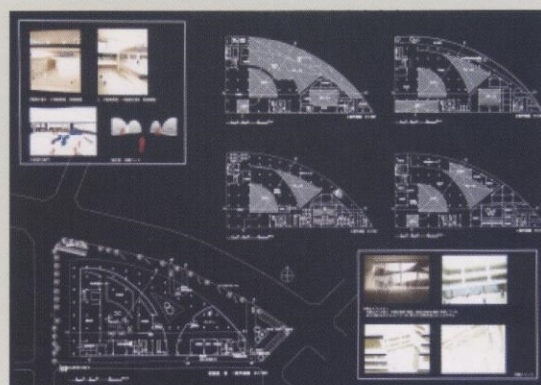
愛知県在住



子育てが一段落して再就職した職場で、ずっと学びたかった「建築」のことを思い出しました。思い立った今この時決断しないときっと後悔する。そんな気持ちで飛び込んだ大学でした。仕事と学生と主婦、3足のわらじを履いて「勢い」で走り抜けた2年間は、想像以上に大変で、想像以上に楽しい日々でした。「建築」を自分の視点から考えるという、これまで足を踏み入れたことのない分野へ思いを馳せる楽しさを味わい、レポートや卒業研究で興味を持った福祉住環境コーディネーターの資格も「勢い」で取得したりしました。この年齢になって「学ぶ」ということに真剣に向き合えたこと、さまざまな年齢や職業の方々とともに学べたことは、得難い体験であり、今後の人生に於いてきっとプラスになると思います。無事卒業を迎え、支えてくれた家族に感謝の気持ちでいっぱいです。

川越 cityhall — 市庁舎と美術館の複合施設 —

model & work panel



concept

オフィス空間のような機能的な市役所。もともと市民のための施設はさすが、閉鎖的に感じる。執務空間はカウンターで仕切れている。どの役所もさほど変わらない。

そんな空間をもっと面白くできないか。様々な人が訪れる活気のある場所としたい。

そこで美術館を併設する。本来、身近であるはずの役所にくれば、身近に芸術・美術ふれることができる。興味の無い者が本物に触れる意味は大きい。

二つの機能を複合することで、相乗効果が生まれ、市民の憩いの場、創造の場として有効利用される。そんな空間となるよう計画した。

comment

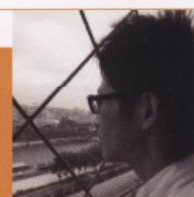
卒業設計とは、自分が学んできた事の集大成です。テーマを決め、コンセプトを明確にし、建物のプログラミングが矛盾無く反映され、美的に洗練され、それらを魅力的に表現することが求められます。設計中は常に迷いが生じます。いかに妥協せずに当初の方針を貫けるかが苦悩となり、放り出したくもなります。ここにある酒井直樹さんの作品も同じ道を歩んで完成されたものです。彼が愛産大で学んできた事の集大成です。

(担当教員：松田 力)

Naoki Sakai

酒井 直樹

東京都在住



大学に行っていなかったので、行ってみたい。

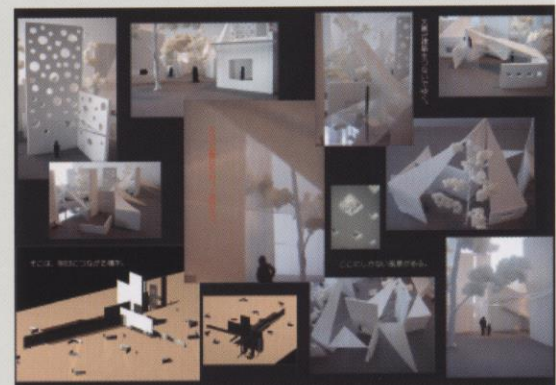
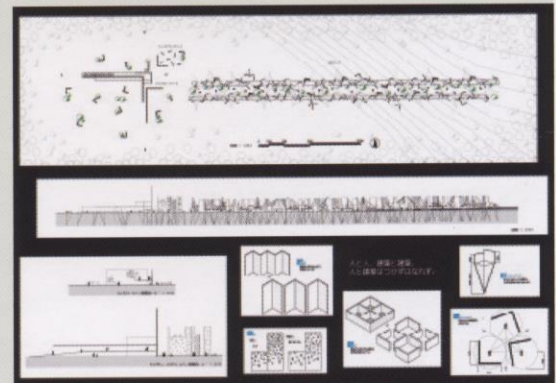
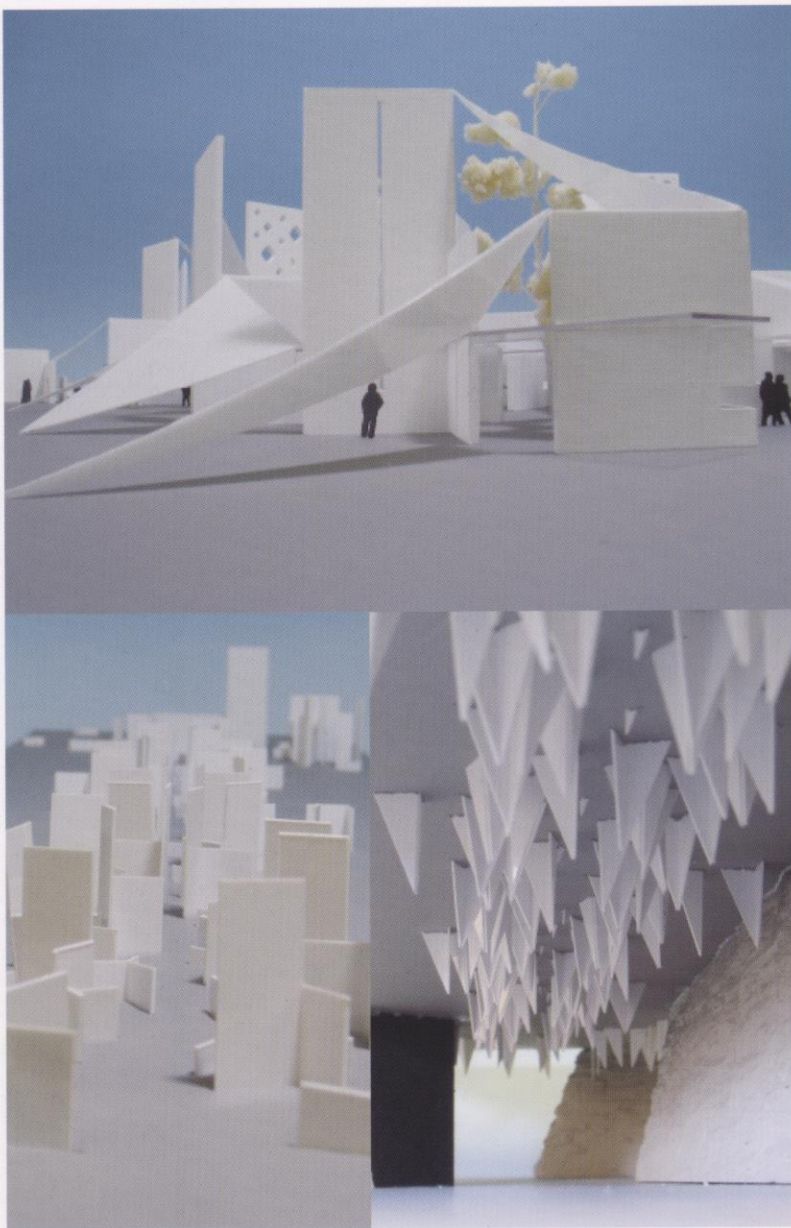
卒業研究でどっぷり設計をやりたい。

そんな単純な理由で愛産大に入りました。

ある程度の建築の基礎的な知識はある、と思ってましたが、モノを見る視点やデザインの意味、建築とは？空間とは？ そんな根本的なところがまだまだ分かってなかったのだと、思い知らされました。

まだまだ知らないことだらけの建築の世界。今後の予定は、とりあえず2010年は海外の建築を何か所か見に行き、コンペにも挑戦したいですね。

model & work panel



concept

自然、生物、光、風、エネルギー……、我々は外界に対し無関係ではない。
しかし、外敵から身を守るために築いてきた強固な外殻は、それらから引き離そうとしている。
そして我々は、外界を遮断した別の世界で生きて行けるシステムを猛スピードで構築し続け、バランスを崩していることに気付かずにいる。
これは、目を開き、耳を傾け、意識を外へ解き放ち、当然の理として人の心に内面化し意識されない社会規範の形成を促す建築の提案である。
人と人、建築と建築、人と建築は付かず離れず適度な距離を保ち、区域をあえて明示せず、社会規範に基づく暗黙のルールに従いながら本当に必要な最小限のアイテムによって空間を構築して行く。

comment

—哲学的風韻— 時間・空間・生命の連続といった哲学的テーマと真正面から取り組んだ作品。数少ないモジュールを繰り返し組み合わせることで限りなく多様な空間を生成することが出来るという知見は、生物学や化学など他分野からの暗喩を想起させられる。アフターグラデュエイト（既卒者）の多い通信教育ならではの作品といえるかもしれない。
理屈倒れになりがちなテーマを、卓越した表現力で「造形」の世界に落とし込んでおり、魅力的な作品になっている。

(担当教員：宮武 仁)

Koji Teramura

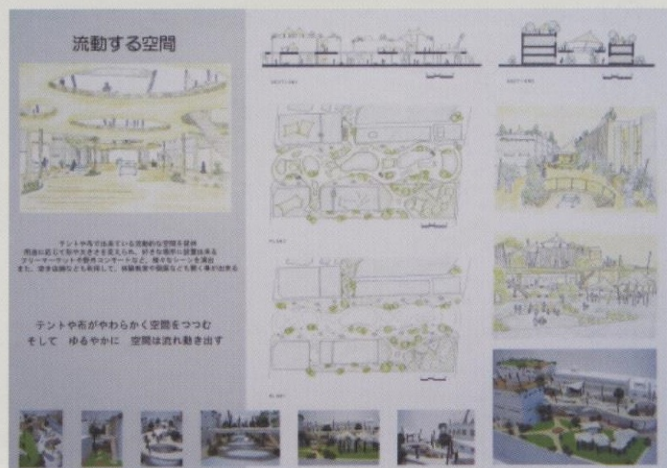
寺村 幸司

愛知県在住



我々は型にはまった生活を毎日繰り返している。私も例外ではない。同じ服を着て、同じものを食べ、同じ道を通り、同じ仕事をし、同じ音楽を聴き、同じことを考え、同じ夢を見て、同じであることに安心して、同じように眠る。この膠着状態から抜け出したいと思う。新しい刺激を感じたいと思う。だから建築の勉強を始めた。今まで同じと思えたことの中に新しい何かが無数に隠れているはずである。ただ気付かないだけである。それを見つけるべくさらに建築知識を深めたいと考えています。そして明日はいつもとは違う道で仕事に行こうと思います。

model & work panel



concept

かつて人々の交流の場でもあり、生活の一部でもあった街の商店街。たくさんの人や物であふれ活気があったが、時代の流れの中で、いつの間にか人通りも少なく寂しい空間となり、人々から忘れられている。元々商店街とは、全ての人に開かれたオープンスペースであり、内と外をつなぐ空間でもある。

商店街を中心に、テントや布で出来ている流動的な空間を提供。用途に応じて形や大きさを変えられ、好きな場所に設置できる。フリーマーケットや野外コンサート、展示ブースなど様々なシーンを演出し人々に親しみやすい文化・芸術のある場所を提供して、様々な人々との交流を深め、好奇心や興味を広げ、新しい価値・創造・才能・可能性を育てる。

そして、文化・芸術のある場所には人が集まってくる。人が集まることにより、取り残されつつある街の商店街に再び活気と笑顔を取り戻す。

comment

時代の中に取り残された商店街。多分この様な場所はいたる所に存在している。この作品は単に商店街の再生だけではなく、空中回廊を設けることで歩道を立体化し、空間の淀みを作ることで、人が留まる場所を創っている。そしてその空間に人が集まり、緩やかに動き始める。その場所は文化・芸術・情報を発信し商店街の枠を超えて、自然発生的な交流の場となる。

(担当教員：木下 太)

Maiko Tokuda

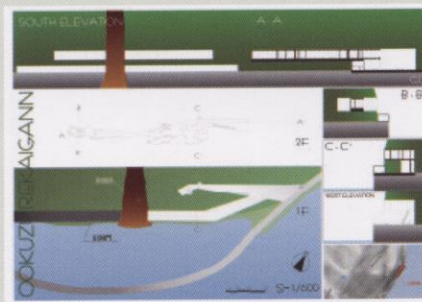
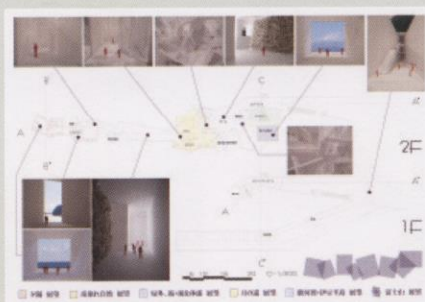
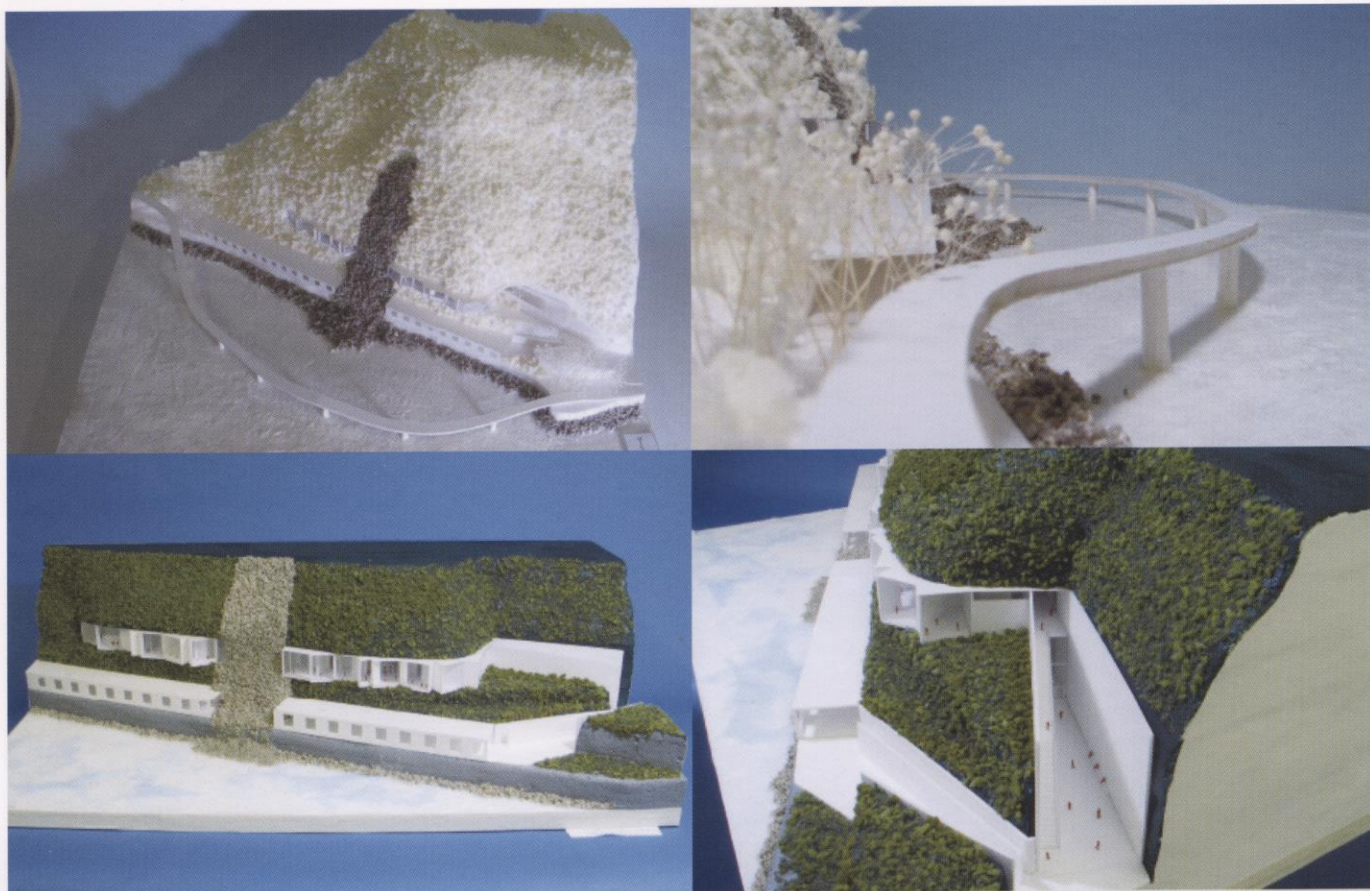
徳田 麻衣子

愛知県在住

以前より興味のあった建築をもっと深く勉強したいと思ったのが入学のきっかけでした。通信教育ということで、最後まで続けられるか不安でしたが、一緒に学ぶ友人・個性的な先生方・そして周りの方々の協力のおかげで、無事に2年間で卒業することが出来ました。

この経験をいかし、今後は建築士の試験を目指し勉強を続けていきたいと思っています。

model & work panel



concept

静岡県静岡市と焼津市を結ぶ416号線は大崩海岸という名の崖沿いの国道で、昭和46年7月の山腹斜面に大崩壊が発生し洞門の復興をする事なくそのままの状態になっている。

崩壊を逃げるように、海に張り出した海上橋が建設され利用されてきましたが、2004年には150号線バイパスが片側2車線化し、交通量も減り地域住民の抜け道として利用され、その存在までもが忘れられようとしている。

大崩海岸は、東の方向に富士山、南に駿河湾、断崖絶壁を望む事が出来る隠れた名称である。崖沿いの崩壊した石部洞門の歴史と自然の厳しさをより身近に体感できる場として展望施設を提案する。

comment

大崩海岸の断崖絶壁な位置に歴史と豊かな自然と触れ合うことができる展望台を計画した作品である。海岸沿いの地形や眺望を巧みに最大限尊重した地形によって生み出された内部空間はスリリングな外部空間へと連続され、自然を出来るだけ破壊しないように配慮されたファサードとして設計されている。

その作者の誠実な設計姿勢と造形力が評価された。

(担当教員：濱田 修)

Keigo Nagasawa

長澤 圭吾

静岡県在住



建築課程を編入することが出来ることを知り、資格取得を目指して入学したのがきっかけでした。

建築を学んでいくうちに、造形やデザインすることの奥深さや難しさを実感しました。

3年次編入から、二年間という『時間』は長いようでとても短く、課題や卒業設計を通して建築のすばらしさ楽しさを教えて頂きました。

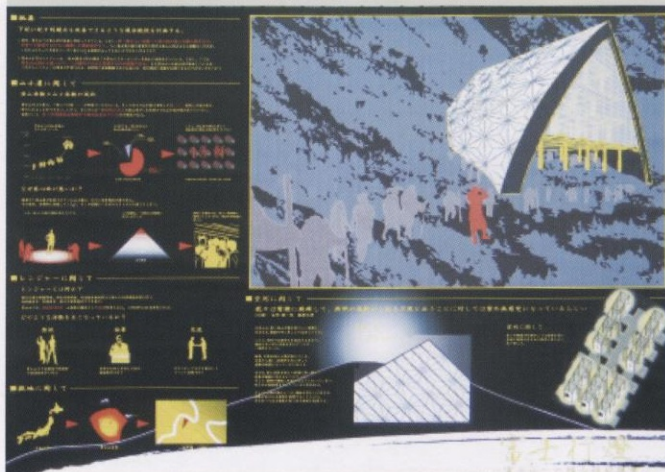
卒業後は資格取得も目指し、もっともっと建築を勉強していきます。

自分を強く信じて、思い切って取り組んでいきたいと思っています。

卒業にあたり、ご指導賜りました先生方、友人、家族、の皆様を支えられ、乗り越えることが出来とても感謝しております。

本当にありがとうございました。

model & work panel



concept

下記に記す問題点を改善できるような複合施設を計画する。

1. 近年、富士山への登山者が急激に増加してきている。しかし、彼・彼女らには狭くて居心地の悪い小屋に泊まるか、日帰りで登頂するか二種類しか選択肢がない。もし富士講の様な修業的な要素を登山に求めるなら問題ないのだが、これからはもっと多様なニーズに答えられる施設があっても良いのではないだろうか？
2. 富士山を守るレンジャーは、4名の隊員が河口湖近くの富士ビジターセンターを拠点に活動を行っている。しかし、ここは富士山山頂から遠いので、この場所では山を管理するのが困難である。また富士山への登山者が増加している中、これからレンジャーの増員が予想される。効率的に活動範囲を広げる為には、別の場所に施設が必要になるのではないだろうか？

comment

大きな一枚屋根の下に、ユニット化された宿泊施設を提案する日隈案は、自身の登山経験からの発想によるところが多い。興味深いのは、現代人の他者との距離のとり方、明るさにおける利便性へのアンチテーゼなど、現代性と原始性の融合を試みている点にある。逆に言えば、富士という特異なコンテクストの鏡の中に、現代若者の都市の考え方が反映されていると言ってもいい。

(担当教員：伊藤 潤一)

Daisuke Higuma

日隈 大輔

東京都在住



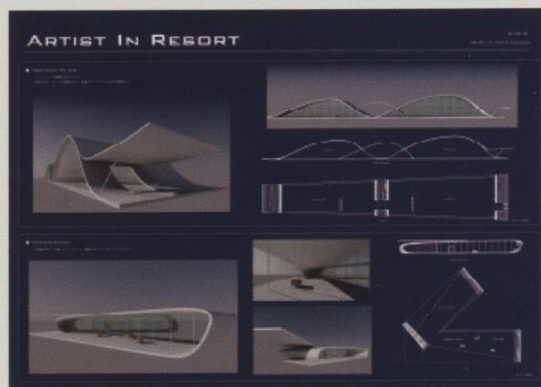
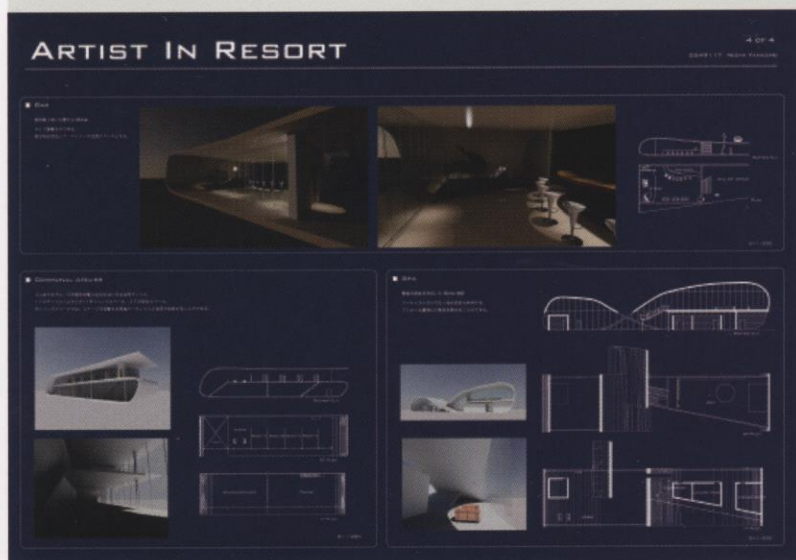
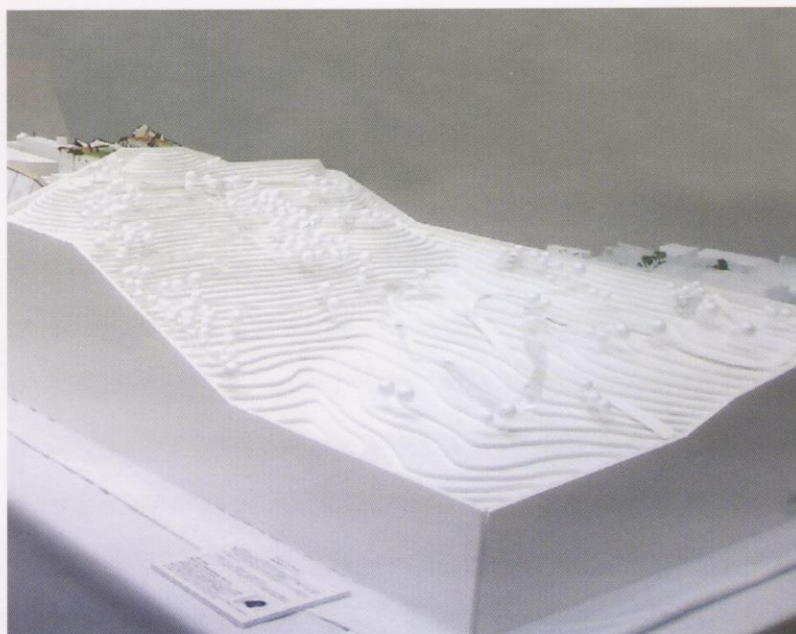
私は以前社寺建築の仕事に携わっていたのですが、建築学科を卒業していなかった為、二級建築士の試験を受験する事が出来ませんでした。そこで、働きながら学べる愛産大のことを知り入学を決めました。

大学では年齢や職業が異なる人々と知り合うことができ、とても刺激を受けることが出来ました。

今後は、大学で学んだことを活かし、新たな視点を持って物事に取り組んでいきたいと考えております。

最後に、伊藤潤一先生をはじめ、御指導賜りました先生方、一緒に勉強してきた仲間、そして家族にこの場を借りて御礼申し上げます。

model & work panel



concept

この計画は、アーティストが緑豊かで静かな森の中に年間を通して滞在し、創作活動に専念できる場所を提供するものである。自然の厳しさの中に置かれ、激しく移ろう季節を五感で感じることはインスピレーションを刺激する。

ここで発生した刺激・感性は地域へと伝播してゆく。町民たちはアートを身近に感じるようになり、アートを介した視点で自分たちの町を見直すことで、それまで気付かなかった発見をもたらす。

この施設は、ただアートを創造するための場所ではない。アーティストだけでなく、関わる人、訪れる人々をも巻き込み、創造する過程やコミュニケーションの中でそれぞれが成長するような「人と町を創造する場所」である。

comment

3次元モデリングというツールを駆使して、未知の空間への冒険を果敢に試みている。柔らかな帯状のアイテムがシームレスに連なりながら空間を切り結んでいくそのさまは、山の斜面というロケーションの新たな魅力を引き出していて、その場所ならではの美しさを体現している。1つのアイデアを多様に展開しているがゆえに、デザインに明晰さと力強い説得力が生まれている。

(担当教員：久原 裕)

Mioya Yamazaki

山崎 未央哉

埼玉県在住



以前は建築とは全く別の業界にいましたが、どうしても建築の仕事をしたと思うようになり、愛産大の入学とほぼ同時に建築業界に転職しました。現在は現場監督の職についていますが、卒業後は建築士の資格を取得し、現場経験を生かした設計ができるような設計士になりたいと思っています。

今回の卒業研究は、私の生まれ育った町に計画したものです。今後は、この計画が本当に実現されることを目標にしていきたいと考えています。

スキマを生かせば街は生まれ変わる

model & work panel



ゆっくりと 再生する住宅街

—CONCEPT—

スミマを巻き合せ、街は生まれ変わる。

既存の住宅街は、戦後、計画的な整備がされないまま、狭い道路沿いに高密度の住宅地が形成された。現在このような住宅地において建替が進んでおり、昔ながらの人情溢れるコミュニティが崩壊しつつある。そこで、上記述べた隙間を利用して既存のコミュニティを基に新しいコミュニティを創設する集合住宅へ、緩やかに再生していくことを提案したい。

—既存の住宅—

戦後、東京の住宅は、戦後、計画的な整備がされないまま、狭い道路沿いに高密度の住宅地が形成された。現在このような住宅地において建替が進んでおり、昔ながらの人情溢れるコミュニティが崩壊しつつある。そこで、上記述べた隙間を利用して既存のコミュニティを基に新しいコミュニティを創設する集合住宅へ、緩やかに再生していくことを提案したい。

—再生後の住宅—

既存の住宅は、戦後、計画的な整備がされないまま、狭い道路沿いに高密度の住宅地が形成された。現在このような住宅地において建替が進んでおり、昔ながらの人情溢れるコミュニティが崩壊しつつある。そこで、上記述べた隙間を利用して既存のコミュニティを基に新しいコミュニティを創設する集合住宅へ、緩やかに再生していくことを提案したい。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

—ゆるぎない建ち—

既存の住宅は、戦後、計画的な整備がされないまま、狭い道路沿いに高密度の住宅地が形成された。現在このような住宅地において建替が進んでおり、昔ながらの人情溢れるコミュニティが崩壊しつつある。そこで、上記述べた隙間を利用して既存のコミュニティを基に新しいコミュニティを創設する集合住宅へ、緩やかに再生していくことを提案したい。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。

ゆるぎない建ち、人々に受け入れられ、
自然に活用されているのが理想である。



concept

現在の住宅は、効率性を重視して土地を切り取り建てられてきた。その結果、効果的に利用されない隙間が、多数取り残されている。この取り残された隙間を効果的に活用することで、既存の住宅街を再生する手法を提案する。

敷地は、東京都豊島区の一部にある住宅地である。戦後、計画的な整備がされないまま、狭い道路沿いに高密度の住宅地が形成された。現在このような住宅地において建替が進んでおり、昔ながらの人情溢れるコミュニティが崩壊しつつある。そこで、上記述べた隙間を利用して既存のコミュニティを基に新しいコミュニティを創設する集合住宅へ、緩やかに再生していくことを提案したい。

comment

—知恵ある眼差し— 遅々として改善がすすまない、都市部低層低密度住宅エリアの再生に一つの方向性を指し示す作品。

住宅の周辺にある「スキマ」を種地にして、居住している人々が転居することなく連続的に、丁度陰陽反転するようにまちを更新して行くことを提案している。

着眼の卓抜さ、プログラムのおもしろさ、造形的まとめのたくみさ、によって「気持ちのよい場所」が生み出されている。

(担当教員：宮武 仁)

Rie Yamamura

山村 理恵

愛知県在住



インテリアショップの仕入れの仕事をしていた時に色々な建築に出会う機会があり、興味を持ち始めたことがきっかけです。

大学の勉強は想像以上で大変でしたが、空間をつくることの奥深さを学ぶことができた有意義な時間を過ごすことが出来ました。また、家族の支えと友人の励まし、そして先生方からの刺激のおかげで無事に卒業することができたことを、とても感謝しています。

卒業後は、2級建築士の資格取得を目指して頑張ります。

卒業研究展の記録

愛知産業大学 主催 展覧会



名古屋展

会場	愛知県美術館 ギャラリーJ室 (愛知県芸術文化センター 8階) 〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目13番2号
会期	2010年3月2日(火)～3月7日(日)
時間	10:00～18:00 ※5日(金)は20:00まで(入館は閉館30分前まで)
内容	通学部建築学科と合同開催。通信教育部からは 建築デザインコースおよび建築学科の選出作品15点
入場料	無 料



東京展

会場	建築会館 ギャラリー(日本建築学会) 〒108-8414 東京都港区芝五丁目26番20号
会期	2010年3月26日(金)～3月28日(日)
時間	10:00～18:00 ※26日(金)は19:30まで(入館は閉館30分前まで)
内容	通信教育部の建築デザインコース および建築学科の優秀作品15点
入場料	無 料

学外の建築系卒業展覧会



第33回学生設計優秀作品展 — 建築・都市・環境 —

主催	学生設計優秀作品展組織委員会・レモン画翠 主催 展覧会
会場	明治大学駿河台校舎 アカデミーコン2F 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台一丁目1番
会期	2010年5月25日(火)～5月30日(日)
時間	10:00～19:00 ※最終日は16:00まで
内容	57校94学科展示 愛知産業大学からは市川浩さんの作品(p.6-7)を出展
入場料	無 料



第51回全国大学・高専卒業設計展示会

主催	日本建築学会・各支部
会場	Aコース18会場、 Bコース19会場の2コースにて全国各地を巡回
会期	Aコース 2010年5月12日～2011年2月20日 Bコース 2010年5月13日～2011年3月5日 (各会場共 3日間程度開催の後、巡回)
時間	各会場毎に異なります
内容	全国大学・高専より180作品展示予定 本校からは高井真弓さんの作品(p.4～5)を出展
入場料	無 料



通信教育による卒業研究の大まかな流れ

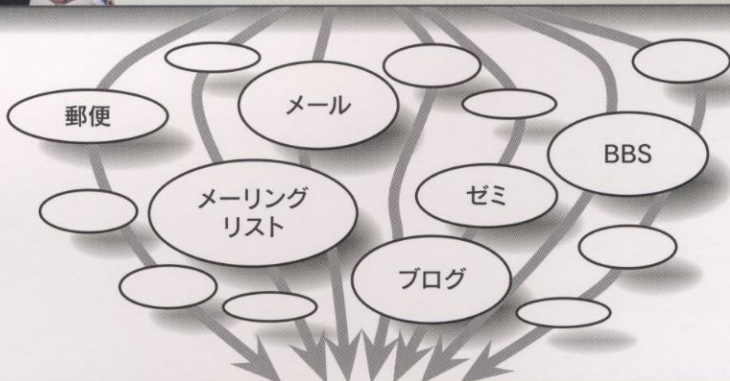
(平成21年度の場合)



卒業研究オリエンテーション

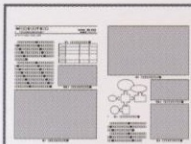
スクーリング

- ・名古屋会場もしくは東京会場にて1日受講
- ・全体説明および担当教員発表
- ・担当教員別に研究方針説明



様々なコミュニケーションによって探求を深める

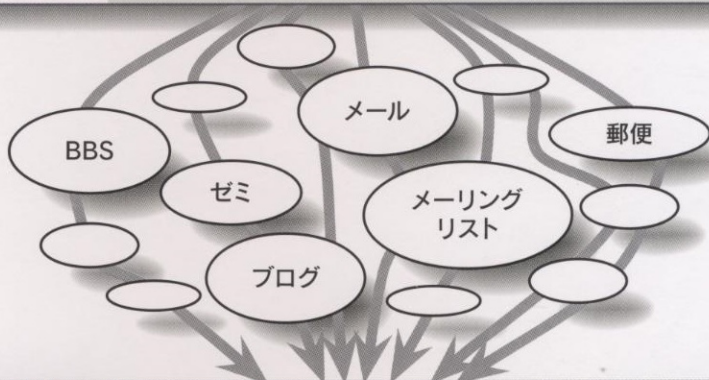
- ・研究テーマ設定
- ・調査・資料収集・分析
- ・問題提起
- ・建築的解決提案
- ・造形研究(スタディ模型など)
- ・その他必要な研究活動



中間報告

通信

- ・レポート形式



様々なコミュニケーションによって作品を深める

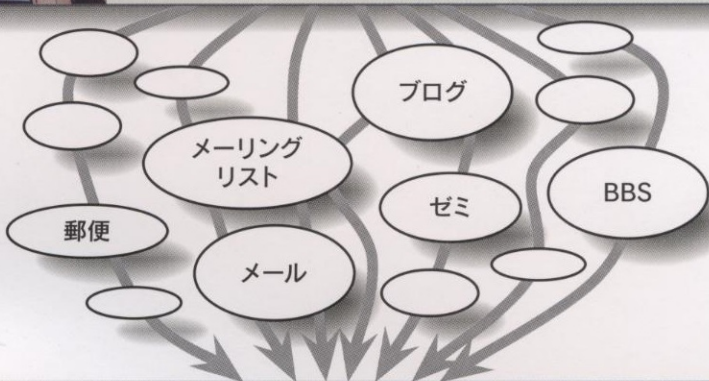
- ・建築計画
- ・図面・論文制作
- ・エスキス模型制作
- ・パネル制作



最終面接審査

スクーリング

- ・名古屋会場もしくは東京会場にて2日間受講
- ・完成したパネルとスタディ模型を用いたプレゼンテーション



様々なコミュニケーションによって完成度を高める

- ・パネルの改良
- ・プレゼンテーション模型



最終作品審査

通信

- ・郵送による作品提出
- ・作品パネル+プレゼンテーション模型または論文+その他必要な提出物

合否判定および選出作品決定

※詳細な事務手続等は記載していません

AICHI SANGYO UNIVERSITY
Dept. of Architecture, School of Distance Learning

2009 Selected Architectural Designs of ASU

愛知産業大学 通信教育部 <http://www.asu-tsukyo.jp/>
文部科学省認可通信教育
愛知県岡崎市岡町原山12-5 〒444-0005 TEL.0564-48-8282 FAX.0564-48-8270
建築学科連絡先 asut-ken@asu.ac.jp